

## 埋蔵文化財センターの研究活動

埋蔵文化財センターでは、発掘技術者養成のための研修や、各地の埋蔵文化財調査等に対する指導・助言をおこなうほかに、各研究室および各人が課題を決めて進めている研究がある。それらは次の通りであり、そのうちのいくつかは別頁で報告しているので(\*印)、ここでは他のいくつかについて紹介しよう。

埋蔵文化財関係情報の収集と調査／全国不動産文化財情報システムの普及流通に関する調査研究／解析図化システムによる文化財計測法の開発／デジタル画像による発掘調査記録法の開発研究／縄文編年の学史的な研究／日本古代の稲作農耕様式の変遷に関する研究／古代地方官衙遺跡の調査研究／古代倉庫遺構の集成的研究／東アジア古代都城の比較研究／東アジア古代の庭園遺構の比較研究／東アジアの古代塑像・壁画の技法的研究\*／動物遺存体による生業活動の復原的研究／残存脂質分析による生活環境の復原的研究／古気候の復原的研究／年輪年代法による古墳時代開始時期に関する研究\*／年輪年代法による白頭山巨大噴火年代の解明／飛鳥・藤原・平城宮跡等出土品の保存処理／古代石造物の製作技法、ならびに保存科学的研究／金銅製遺物の保存科学的研究／広域遺構探査法の開発研究\*／復原建物の構造安定性に関する研究／石造文化財の経年変化に関する研究／発掘調査支援機械システムの開発研究\*

**埋蔵文化財関係情報処理の現状** 文化財情報の収集と公開にはパソコン通信も引き続き利用している。意見交換

の場の提供だけでなく、各種データベースを作成して活用をはかっている。また、新たにインターネット経由での情報公開と活用のために機器の整備を進め、「奈文研ホームページ」を立ちあげて、外部への公開を開始した。奈文研の既往の調査研究の紹介だけでなく、発掘調査の速報など、新鮮な情報の提供に心がけている。

**全国不動産文化財情報システム構築の現状** 平成7年度末に整備されたハードウェアを活用して初期データをインターネット経由で公開するための準備作業をおこなった。これと平行して遺跡情報の収集とデータベースの変更・更新を続行している。データ公開のためのハードウェア・ソフトウェアは進歩が著しい分野であり、最適な手法の選択のために調査をおこなった。

**解析図化システムによる文化財計測法の開発** 発掘調査で検出した遺構のデジタルマッピングもようやく軌道にのり、属性付けも方針が定まった。あとは、異なる図化機の違うOSのもとで作られたデータを変換して奈文研のマシーンで可読できるデータにすること、データ保存の媒体を統一規格にすることなど、各測量会社と綿密な打ち合わせの上、決定していく作業を進めるのみ。

**古代地方官衙遺跡の調査研究** 郷の支配や収奪に関わる末端官衙をめぐって、①郷の編成と村落結合、②人的組織論、③郷衙(郷家)論、④荷札木簡論、⑤郡衙出先施設論、⑥首長居宅論、という視覚から、これまでの研究の現状と問題点について整理し、それと併行して郷関係官衙遺跡の文献目録を作成して、200ヶ所以上の遺跡の発掘調査例を収録した。また、古代の倉庫遺構について、茨城県平沢官衙遺跡などにみられる総柱式倉庫の周囲をめぐる柱穴例を取り上げ、その性格を検討し、軒支柱とみる考察をおこなっている。

**動物遺存体による生業活動の復原的研究** 長崎県福江島にある大浜遺跡では、従来より弥生時代のウシが出土していたが、県教委の今年度の調査でもウマ、ウシの骨が出土しており、上層に須恵器を含む層があることからその歯を採集し、年代測定中。君津市にある6世紀の市宿横穴遺跡出土の骨角器および動物遺存体を分析した結果、出土遺物中、弓付、骨鏃、刀装具などが田辺市磯間岩陰や、石巻市五松山洞穴遺跡の出土品と共通性をもつことから、黒潮を南北に行き来した海人集団が存在することがあきらかとなった。(工業普通)